



1 ねらい

勝海舟の考え方や行動について調べ、勝海舟と西郷隆盛の話し合いで江戸城の無血開城が行われ、新しい時代の始まりとなったことが分かるようにする。

2 授業の流れ

1 導入・視聴前のポイント（10分）

- ・戊辰戦争当時の略年表や明治政府軍の進軍路の地図などをもとに、勝海舟と西郷隆盛の江戸城無血開城の話し合いの絵をみて、どのような話し合いが行われたのか考える。
- ★勝海舟は江戸幕府側、西郷隆盛は明治政府側の立場であることを押さえ、新政府軍が江戸へ迫る中、2人の間でどのような話し合いが行われたか予想させる。略年表から江戸では大規模な戦争がなかったことを読み取らせ、予想の根拠としても良い。

2 学習課題の提示

「勝海舟は新しい日本をどのように考え、どのように行動したのだろうか。」

3 番組視聴 ワークシート1（15分）（ドキリポイント1までを視聴）

- ・番組視聴により勝海舟の新しい日本についての考え方や、周りの人々への影響についてまとめ、ワークシート1にメモする。
- ★日本人同士で争うことは外国につける隙を与えることになり、日本人同士で協力し新しい国をつくる必要があるという考えが当時の日本人にとって、進んだ考え方であったことに注目させる。）

4 番組視聴 ワークシート2（15分）

- ・新政府軍が江戸に迫る中、江戸を戦場にしないため、勝海舟と西郷隆盛が話し合ったことが分かり、2人の気持ちを考え、それぞれの人物になったつもりで表現する。
- ★日本人同士で争っている場合ではない。江戸で戦争すれば多くの人々に被害がでる。
- ★江戸で戦争になればそれを機会に外国がどのような行動に出るか分からない。やはり、江戸で戦争をすることは避けなければならない。
- ★江戸を戦場にすることはやめましょう。幕府の軍隊は江戸城を開城して欲しい。

5 まとめ ワークシート3（5分）

- ・学習課題についてのまとめをする。
- ・勝海舟は新しい国の形を考え、その考えに影響を受けた人たちがいた。勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより江戸が無血開城され、新しい政府に引き継がれた。

3 評価のポイント

・勝海舟は新しい日本のことを考え、西郷隆盛と話し合い、江戸を無血開城したことが分かり、その時の2人の気持ちを考え表現することができている。

ワークシート例



かつ かい しゅう
勝海舟 ～幕末の動乱(幕府側)～

くみ なまえ

学習課題

勝海舟は新しい日本をどのように考え、どのように行動したのだろうか。

1 勝海舟の歩みをまとめ、新しい日本をどのようにしようと考えたのか考えてメモしよう。

勝海舟の歩み

- ・アメリカからペリーが来航し開国を要求したときに、勝海舟は、海軍の創設や、積極的な西洋技術の導入などの開国を前提にした案を提出した。
- ・幕府の使節団に加わり、アメリカに渡り、アメリカの優れた産業や制度に感心する。
- ・軍艦奉行という役職になり神戸に海軍の訓練所を開設した。

勝海舟の考え

- ・日本の国内で混乱が続けば西洋列強の介入を受け、植民地になってしまうかもしれないと危機感をつのらせ、日本人同士が争ってはいけないと考えた。
- ・日本人が協力して新しい国をつくるのが大切だと考えた。

2 新政府の軍隊が江戸に迫ってきたときに、勝海舟と西郷隆盛はどんな話し合いをしたのだろうか、2人になったつもりで考えてみよう。

分かりました。
江戸を攻撃するのはやめましょう。
そのかわり、幕府の軍隊は江戸城を開け渡してほしい。



江戸が戦場になれば多くの犠牲者が出る。日本人同士で争っている場合ではない。江戸を攻撃するのは考え直してほしい。

3 勝海舟について学んだことをまとめよう。

勝海舟は日本人同士が争うのではなく新しい日本をつくるのが大切だと考え、新政府軍が江戸に迫ったときに、西郷隆盛と話し合い、江戸城を無血開城し江戸を戦争の被害から救った。

